
YUIが悪と闘ったら 8

pokemomtyan

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

YUIが悪と闘ったら8

【コード】

N2093T

【作者名】

pokemonmtyan

【あらすじ】

堪坂、カダフィ。奴等の狙いは何だ？

もしもYUIが聞いたら。(前書き)

感想書いてね。

もしもYUIが闘ったら。

カダファイ（見せてやる・俺の変な模様の実の能力、砂の力を！）
カダファイは右手を壁につけようとした。堪坂（カダファイ様。その前
に見せる物があつたのでは無いのでしょうか？）ウイリアム（見せ
るものって何だ！お前等怒！）ケイト（私達は悪に屈さないわ怒！）
神崎昂（貴様等・ヨーロッパやアメリカを崩壊させて、国連が黙
っている筈がないぞ！）そんな事を神崎は言っていたが、心の中
は楽しんでいた。やべえ・面白い事になってきた。この大腸菌0
111の作戦を思いついたのは、神崎自身であつた。数日前、神崎
が会っていた謎の男は堪坂だつたのだ。イギリス海軍の第1軍を休
憩所の昼食に、大腸菌0111の入つたユツケを食べさせ食べた後
苦しむ兵士に、解毒剤と偽りヒ素を飲ませるよう指示したのはこの
男だつた。神崎（やばい・笑みがこぼれる。）神崎は笑みを殺し
た。菅直人（か・カダファイ！貴様に言っておきたい事がある。）カ
ダファイ（ほゝアホ缶が俺に何の発言だ？アホの言うことを聞くのは
嫌だ、要点だけを簡潔に言え・）菅は歩いて、カダファイの前に立
つた。カダファイ（何だ・）菅はその場で座り込み、裾からある物
を出した。菅（へへへ。カダファイ様。俺様は実は貴方を尊敬してい
たのです。）一同（は？）菅（そんでですね。俺様の献金が今、ポ
ケットマネーで1千万札束であります。ユーロ何ですが、アラブ紙
幣に代えてどうかお使いください。）菅は札束を地べたに置き、土
下座をした。ウイリアム（空き缶！お前は自分だけ助かりたいのか
！）ケイト（情けない怒！）神崎（恥を知れ怒！）菅（う・うるさ
い！俺様は自分だけ助かりたいんだ！どうせ、人間なんて全員そん
な生き物だ。ゴミ屑で自分勝手な生き物だ！自分の事しか考えずに
何が悪いんだカン叫！）カダファイ（クハハハ・確かにそつだ空き
缶。だがな・俺も自分勝手だ・お前を助ける義理もねえよ・）
菅（えっ！そ・そ・そそんな）カダファイ様、俺様も日本を貴方様方

のように、一党独裁政治にしたいんですよ笑！先輩として、尊敬させて、く・だ・さ・い・よ（菅は踊りながら、ゴマをすった。ウイリアム&ケイト&神崎（あ・呆れてものが言えない・・・）カダファイ（つくづく、お前は救えねえ馬鹿だな。）菅（へえ。あっしはアホの長芋でござえますだ）カダファイ（俺の手が、お前に触れたらどうなるか分かるか・・・）菅（？）カダファイは右手を伸ばして、菅の首を掴んだ。菅（な・何をするんですか！）カダファイ（他の奴等！良く見ておけ。コイツがどうなるか、見せてやる・・・）菅（く・苦しい。）ケイト（きゃ！まさか・・・）ウイリアム（ありえない。）神崎（これが、自然系。変な模様の実の砂の力。）菅（お・俺・・・）様・の体が・・・か・か・か乾いてきて・・・く・く・く・苦しい・・・）菅の体はみるみる、干からびていった。カダファイ（クハハハ。これが、砂の力だ。砂は水分を乾かせていく・・・そして、後に残るのは、このアホのように渴き干からびた死体と、砂上の廃墟よ。俺はヨーロッパを破壊して、こういった干からびた死体と砂上だらけの廃墟の土地にして、アメリカも同じような光景を全世界に見せてやる。クハハハハ。）菅は地べたに叩きつけられ、そよ風とともに外に飛んで行った。ケイト（貴方って人は・・・）神崎（自国民も多数、殺し・・・まだ飽き足りないのか！）カダファイ（あれは、生贄みたいな物だ・・・全ては計算通りだ！）ウイリアム（くそ！）神崎は思った。馬鹿め・・・お前らは俺の捨て駒にすぎん。しかし・・・あの砂の能力は厄介だ。俺の覇気と能力で・・・いや・俺はまだ中途半端だ。コイツに勝てる見込みも分からん。まだ、見ておくかと考えていた。セイフ（ジャーハハハハ。パパ！格好良いぞ。）ムバラク（ムツヒツヒ。恐ろしさは、私の上を走りますな。）堪坂（カダファイ様・・・例の物を見せましょう。）カダファイ（用意できたか。早く見せろ。）カダファイは煙草を吸った。堪坂（では・・・オイ。石野マネージャー！例の物を見せろ。）石野（フオフオフオ。そういう寸法でございませぬ。用意はできています。おい！幕を開ける！）社員（ハハ！）中央の幕が開かれた。ケイト（な・何て事！）ウイリアム（貴様怒・

・何て事をしてくれたんだ。父さん！ヘンリー！大丈夫か！）チャールズとヘンリーは両手を太い釘で打ち抜かれ、磔にされていた。チャールズ（う・ウイリアム。私に構うな・・・）ヘンリー（に・兄さん。ウイリアム（貴様等叫！）堪坂は手を叩きながら言った。堪坂（ハイハイハイ。美しい家族愛だ事。だが、僕ちゃんはお金がかたてよ〜ん うへへへへ。）セイフ（ジャーハハハ。マジでウケる。パパの頭もツルツル。ウイリアムの頭もツルツル。チャールズの頭もツルツル。僕の頭もツルツル。セイフちゃんです）。笑ジャーハハハハ。）ムバラク（ムツヒツヒ。ご子息。意味は解りませんが私も楽しいです。）カダファイ（クハハハ。コイツ等は人質として、我が国に連行するぞ。）ウイリアム（させんぞ怒！）カダファイ（おっ！そういえば言っておきたい事が貴様にあつた。）ウイリアム（何だ！）カダファイ（実を言うとな・・・お前の母親、ダイアナ妃は交通事故で死んだんだよな。）ウイリアム（そうだ・・・）カダファイ（実を言うとな・・・パラッチもそうだが・・・トンネル内に自動車をスリップさせるように仕掛けをアルカイダに用意させたのは・・・この俺だ。）ウイリアム（な・何！）カダファイ（クハハハ。悪く思うな。俺が黒幕つてわけだ！）セイフ（パパ！格好良いぞ！）ウイリアム（貴様等怒！）ウイリアムは自分の能力の、ゾン系、ドーベルマンに変形した。ケイト（ウイリアム。駄目！挑発に乗らないで！）ウイリアム（我慢できんぞ俺は。）ウイリアムはサーベルを抜いて構えた。ウイリアム（喰らえカダファイ！聖剣奥義・・・鳴牙！）ウイリアムはサーベルを横に構えたまま突進した。神崎（斬ったか！）カダファイ（あゝあ。残念だったな・・・）ケイト（す・砂になつて斬れない。）ウイリアム（何でだ！）カダファイ（覇気が足りなかつたようだな坊主・・・自然系の俺にはお前は斬れん！）カダファイはアラブ刀を抜き、ウイリアムを斬った。ケイト（ウイリアム叫！）カダファイ（あゝあ。弱いつてのは、罪だな。）ケイト（な。なめんじゃなわよ叫！）ケイトは両指に、仕込みチェーンをはめて回しながらカダファイに向かった。カダファイ（ふう〜英国

紳士の王の机は良い座り心地だ・・・) ケイト(喰らえ! クジャツキ
ーアタク!) ケイトは右手のチェーンをカダフィの顔に当てたが、
砂となっただけだった。カダフィ(生意気な小娘だ。オイ! セイフ・
・お前が欲しがっていた女はコイツか? やるよ。) カダフィはケイ
トを掴んで投げて、セイフにやった。セイフ(うわゝパパ。ありが
とう。欲しかったんだこのオモチャ。) セイフはケイトに抱き着い
た。ケイト(嫌だ・・離せ!) セイフ(ハアハア。良い匂いだ! 今
晩これで遊ぼう!) ムバラク(ムツヒツヒ。一件落着ですな。) 堪
坂(それと、神崎。お前にも来てもらう。) 神崎は手錠をかけられ
た。神崎は耳打ちをした。神崎(ある程度の事はすんだが、YUI
が来る事を忘れるな。) 堪坂(フフ。分かっている。) 菅(待ちや
がれゝ!) 外に飛ばされた、菅直人が戻ってきた。) カダフィ(お
前・・水を飲んだのか? それと、何を持っている?) 菅(此れは今
年の夏に遊ぶために作った、水鉄砲だ! 名付けて。「いやゝん。菅
さん。夏服の制服が水ですけて下着が見えちゃうゝ君だ!」ワンピ
ーズで見たが、砂砂は確か、水に弱かった。さつき、河川の水を大
量にくんできた。) カダフィ(そつとやちよつとじゃあ、俺の体に
水をかけても無理だぞ。) 菅(5段階にこの理系の俺様作った、
水鉄砲は水力を代えられるんだ! 5パワーマックス!) 菅は5に数字
を持って行った。カダフィ(?) 菅(喰らえ! ポンプウォーター!)
消防器並の水力をカダフィに浴びせた。神崎(凄いぞ! アホ! これ
で倒せる。) ケイト(役に立った。) 菅(いやゝん。) しかし、カダ
フィは普通に立っていた。菅(かかかかゝん叫! 何でだ!) カダフ
イ(言つとくが、俺は覇気を習得しているし俺の能力は、海は無理
だが河川の水や湖を干からびさす事が出来るんだ・・・) カダフィは
左手を挙げて笑った。菅(く・クロコダイルより凄い・・・) カダフ
イ(さて、帰るかお前等・・・) セイフ(ケイト! 来るんだ!) ケイ
ト(嫌!) ケイトはセイフの手を噛んで逃げた。カダフィ(お前は
殺しておくか・・・) カダフィは左手でケイトを持ち上げて、外に落
とした。ウイリアム(け・ケイト!) 菅(キャサリン妃!) 神崎カ

ダフィ（クハハハハ！）しかし、空から何か飛んできて、ケイトを救った。ケイト（YUI・・・）YUI（ぷは〜危なかった。）YUIはパラグライダーを部屋に向けて入った。カダフィ（お前がYUIか・・・）YUI（そうだ。お前の兵は全て斬ったぞ！）堂本剛（あゝ高いところ怖かった。）続

もしもYUIが闘ったら。(後書き)

感想書いてね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2093t/>

YUIが悪と闘ったら8

2011年5月12日13時25分発行